



溶接学会若手会員の会 第 66 回運営委員会開催報告

副委員長 山下 正太郎 (大阪大学)・田中 大輝 (東芝エネルギーシステムズ株式会社)

Report of the 66th meeting of WELNET steering committee

by YAMASHITA Shotaro and TANAKA Daiki

溶接学会若手会員の会 運営委員会は、全国大会機関中に開催されるのが通常であるが、2022 年度春季大会が Web 開催 (オンデマンド配信) となったため、本運営委員会は Web 会議を活用することで、以下の日時に執り行われた。

日時：2022 年 4 月 25 日 (月) 15:00~16:00

場所：Cisco Webex Meeting を用いたオンライン開催

出席者 (敬称略)：

鴫田 (東北大学)、田中 (東芝エネルギーシステムズ)、山下 (大阪大学)、庄司 (大阪大学)、山本 (大阪大学)、渡邊 (JFE スチール)、笠野 (住友重機械工業)、三浦 (大阪大学)、久保 (岩手県工業技術センター)、古免 (大阪大学)、阿部 (埼玉大学)、尾崎 (三重大学)、宗村 (JFE スチール)、松田 (大阪大学)、清水 (大阪大学)、波多野 (川崎重工業)、浅間 (三菱電機)、田中 (大阪産業技術研究所)、鳥形 (IHI)、藤原 (ダイヘン)、崔 (広島大学)

出席者：21 名、委任：13 名 (運営委員総数：39 名)

資料：

welnet 66-0	議案
welnet 66-1	第 63 回運営委員会議事録 (案)
welnet 66-2	2021 年度活動報告
welnet 66-3	新体制案
welnet 66-4	2022 年度活動計画
welnet 66-5	会計報告
welnet 66-6	全国大会関係
welnet 66-7	編集関係
welnet 66-8	広報・ML 関係
welnet 66-9	研究会・施設見学会関係
welnet 66-10	勉強会関係
welnet 66-11	出前講義関係

welnet 66-12 グローバルネットワーク活動関係

welnet 66-13 アウトリーチ活動関係

【審議・報告事項】

議事に先立ち、庄司前委員長より挨拶を頂いた。その後、若手会員の会 運営委員会の新メンバーより自己紹介を頂いた。

1. 第 63 回溶接学会若手会員の会 運営委員会議事録の確認・承認

庄司前委員長より、welnet 66-1 に基づき、第 65 回溶接学会若手会員の会 運営委員会議事録 (案) の報告がなされた。本議事録案は、その後の決議により承認された (運営委員数：39 名に対し、承認：21 名、委任：13 名、無回答：5 名)。

2. 2021 年度活動報告

庄司前委員長より、welnet 66-2 に基づき、2021 年度活動報告がなされた。2021 年度に開催された種々のイベントについて活動概要が報告された。コロナウィルス感染拡大防止の観点から、全てのイベントをオンラインで開催し、施設見学会など対面開催を必要とするイベントなどについては見送ることになった旨、報告された (各イベントの詳細は、各担当委員から報告)。

3. 若手会員の会 新体制について

welnet 66-3 に基づき、2022 年度からの新体制について確認がなされた。鴫田駿 助教 (東北大学) を新委員長とした若手会員の会の新体制、ならびに新たな副委員長・担当幹事についても確認・承認された (運営委員数：39 名に対し、承認：21 名、委任：13 名、無回答：5 名)。その後、鴫田委員長をはじめ、副委員長、各担当幹事より挨拶を行った。

4. 2022 年度活動計画

鵜田委員長より、welnet 66-4 に基づき 2022 年度の活動計画が紹介された。コロナ収束状況に応じた全国大会の動向を踏まえ、対面開催が効果的なイベントに関しては適宜対面を取り入れていく必要があるなど前向きな議論がなされた。GN 活動の一環として、IIW2022 東京大会における若手イベント開催と、若手会員の会からの積極的な参加について情報共有された。2021 年度までに議論されたアウトリーチ活動については、日本溶接協会と詳細を協議していることなどについて情報共有された。コロナウイルス感染状況に応じた柔軟な対応を取るとともに、前向きなイベント開催を適宜行っていくことについて確認された。

5. 会計報告

前会計担当の山下委員より、welnet 66-5 に基づき、2021 年度の会計報告・2022 年度予算について報告された。2021 年度は一般会計として 80 万円、GN 活動費として 30 万円の収入があった。それに対し、全てのイベントがオンライン開催となったことから、オンライン会議ツールである Cisco Webex meeting アカウントの使用料ならびにメーリングリストの更新費の支出にとどまったことが報告された。

6. 全国大会関係

松田委員より、welnet 66-6 に基づき全国大会イベントについて報告された。2022 年度春季大会におけるイブニングフォーラムの内容及び参加者などについて確認された。2022 年度秋季大会が対面実施予定であることから、例年通り、ポスターセッションの準備や協力に関するお願い、現在の準備状況などについて情報共有された。

7. 編集関係

山本委員より、welnet 66-7 に基づき溶接学会誌における若手会員の会担当ページの状況について報告された。学会誌のスケジュール確認、執筆への協力に関するお願い、特に、コロナウイルス感染状況下で情報が不足している国際学会参加者・参加予定者の情報共有・執筆含め、ご協力頂きたい旨、呼びかけがあった。また、学会誌 92 巻にて若手会員の会担当の特集記事が迫っている旨、報告があった。

8. 広報・ML 関係

三浦委員より、welnet 66-8 に基づきメーリングリストの配信実績について報告された。また、現在溶接学会ホームページの更新に伴い、若手会員の会の担当ページもリニューアルを進めている旨、報告された。

9. 研究会・施設見学会関係

古免前委員より、welnet 66-9 に基づき研究会・施設見学会について報告された。コロナウイルス感染状況から、施設見学会は中止となったこと報告された。そのような中で、2021 年度下期活動報告として、オンライン会議での研究会を実施したこと、報告された。若手会員のネットワーク形成を考慮

すると、対面での交流が重要であるため、感染に関するガイドラインを遵守することを前提に、施設見学会・研究会などの対面開催に対して前向きに議論された。

10. 勉強会関係

鵜田前委員より、welnet 66-10 に基づき、勉強会実施状況について報告された。オンライン会議として計 3 回の勉強会を実施したが、参加者が大学関係者に偏ってしまっていることが懸念点として問題提起された。今後は、より多様な人材が参加できるような開催方法・内容を検討していく必要があることが議論された。

11. 出前講義関係

鵜田前委員より、welnet 66-11 に基づき、出前講義の趣旨・状況について報告された。コロナウイルス感染状況から、2021 年度は出前講義を実施できなかったこと情報共有された。今後の感染状況やガイドラインの緩和など、状況に応じて再度実施を検討していきたい旨、議論された。

12. グローバルネットワーク活動関係

庄司委員より、welnet 66-12 に基づきグローバルネットワーク活動について報告された。IIW2022 東京大会で開催予定の若手セッションにおける活動協力が呼びかけられた。また、新たな活動として、国際学会参加助成制度、海外との研究会オンライン開催などが提案された。今後、詳細に議論を行う予定である。

13. アウトリーチ活動について

鵜田委員長より、welnet 66-13 に基づき、アウトリーチ活動について報告された。日本溶接協会との連携など、その他にも具体的な内容について議論された。中長期的な視点から具体的な活動を考える必要があることから、今後より詳細に議論を進めていく予定である。

以上